

謹賀新年

皆様にとって良い1年でありますように



西日本旅客鉄道労働組合 和歌山地方本部



新年あけましておめでとうございます。

「今こそ、個人の長所を持ち寄る時！」

新年のご挨拶

執行委員長 堂脇 義史

新年明けましておめでとうございます。

JR西労組に集う組合員、そしてご家族の皆様におかれましては晴れやかに新年を迎えられましたこととお慶び申し上げます。

旧年中は、JR西労組の様々な取り組みに多大なご理解とご協力を賜り、心から感謝を申し上げます。

さて、2024年は能登半島地震や日向灘地震と、私たち和歌山県で生活する者にとって「とうとうその時が来るのか」と緊張が走った1年となりました。あらためて、被災された方々に対して心からのお見舞いと能登半島地震支援カンパにご賛同いただいた組合員の皆様に感謝を申し上げます。

本年は4月から始まる大阪・関西万博に向け急ピッチで準備が進んでいます。期間中、大阪市内を中心に近隣府県にも多くの方が訪れるビッグな年となると期待が膨らみます。公共交通（鉄道）を担う私たちJR労働者にとってはさらなる安全の確立と、それぞれの持ち場で紀の国わかやまの魅力を発信する立役者の一人としてご活躍されることを確信しています。

新年を迎え、この1年間私皆さんと共に考え、行動したい事柄についてお伝えします。

まずは私自身「敬意と共感の輪を広げる」この言葉を日々の第一理念として大切にしていきたいと考えています。

コロナも落ち着き、世間のあらゆる事がフルスベックで動き始めました。ただ、コロナを経験した我々は、人への関心

や接触があの頃から元に戻っていないと感じる時があるからです。これは社会全体でそうなのかもしれません。隣人が苦しむなら声をかける。嬉しそうならその理由を聴く。こういった日常の何気ない会話が勇気を出さないといけない雰囲気が増えたように感じるからです。

「組織」とは、個人のみでは解決できない事柄に対して、人がまとまり、個々の長所を持ち寄って解決に導く。あるいは新たなものを生み出していく事と私は理解しています。我々を取り巻く環境が目まぐるしく変わっていく現代だからこそ個人で解決を急ぐのではなく、組合でも会社でも人との会話や気づきを増やし、チームとして現下のトラブルに対峙していければと強く望んでいます。

今後、労働人口の減少が顕著に表面化し、人手不足は私たちJR西日本で働く組合員にとっても他人事と言えません。

「JR西日本で働きたい」「働いて良かった」と感じてもらえるよう、賃金を含めたさらなる労働条件の向上に向け、目前の2025春季生活闘争における取り組みや職場で発生する諸課題に対して各級機関が一体感を持って解決し前進できるよう、私も先頭に立つて皆さんと共に乗り越えられるよう努力する所存です。

結びに、向こう1年が皆様にとって辛多く、連帯と充実の感じられる年となります事を心からご祈念し新年のご挨拶とさせていただきます。

共に頑張りましょー！！

今年もよろしく

お願い致します！

JR西労組

和歌山地本執行部

執行委員長

堂脇 義史

副執行委員長

脇村 誠規

中田 隆博

書記長

藤々木 正幸

執行委員

真鍋 道俊

林 和弘

西 良也

新家 華子

小田 貴生

尾西 良介

中川 陽介

特別執行委員

福本 拓良

会計監査

石井 晃司

東山 直人

青年女性委員長

上地 健太郎

地本職員

木下 伸子

石川 澄香